

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務	薬業医療事務		解剖生理学 I 30 時間 基礎疾患 I 30 時間 簿記 60 時間 薬剤学 I 30 時間 薬理学 I 30 時間	160 時間	
医療専門	診療放射線		エックス線解剖学 I 60 時間 エックス線画像技術学 I 30 時間 エックス線画像技術学 II 30 時間 画像工学 I 30 時間 エックス線解剖学 II 30 時間 医用工学 II 60 時間	240 時間 (9 単位)	
	看護		看護学概論 I 30 時間 看護学概論 II 30 時間 看護の共通技術 I 30 時間 看護の共通技術 II 30 時間 日常生活援助技術 I 30 時間 日常生活援助技術 II 30 時間 看護過程 I 30 時間 成人看護学概論	240 時間 (9 単位)	

			30 時間		
(備考) ※シラバスによる一部抜粋 次ページよりシラバス添付					

薬業医療事務学科

解剖生理学 I

単位数 2 単位（30 時間）前期・後期
担当 岡野 祐規子（非常勤講師）

現役の薬剤師が、製薬会社の研修部門や薬局での実務経験を活かし、人体の解剖生理に関する講義をする。

1. 概要

人体の各名称、構造とその機能を理解し、医療に従事する上で必要な知識を習得します。

2. 学習目標

- ①人体の構造と機能について興味を持つ。
- ②人体の主要器官の名称と構造と機能が理解できる。
- ③簡単な薬の働く仕組みについて知る。

3. 到達目標

- ①主要器官の場所や名称を答えることができる。
- ②主要器官の構造と機能を説明できる。
- ③医療に従事する上で必要な解剖生理の知識を習得する。

4. 評価

定期試験【80%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【20%】をもって総合的に評価する。

※再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点(20 点満点)をもって評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「ココデル虎の巻 登録販売者試験 対策テキスト（下）」

その他：必要に応じてプリントを配布する

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

人体の構造について解説しプリントに書き込みながら知識の確認をする。

また画像やイラストを見ることで人体構造をより理解し学習していく。

【授業計画】

回	講義内容 (前期)
1	オリエンテーション 人体の構造
2	内臓器官—消化器系
3	内臓器官—消化器系
4	内臓器官—消化器系
5	内臓器官—消化器系
6	内臓器官—消化器系
7	内臓器官—呼吸器系
8	内臓器官—呼吸器系
9	内臓器官—循環器系
10	内臓器官—循環器系
11	内臓器官—循環器系
12	内臓器官—循環器系
13	内臓器官—泌尿器系
14	内臓器官—泌尿器系
15	前期まとめ

回	講義内容 (後期)
1	感覚器系—目
2	感覚器系—目
3	感覚器系—鼻
4	感覚器系—耳
5	運動器系—皮膚
6	運動器系—皮膚
7	運動器系—骨
8	運動神経系—筋肉
9	中枢神経系
10	末梢神経系

基礎疾患Ⅰ

単位数 2単位（30時間）前期・後期
担当 松谷 涼子（非常勤講師）

元看護師の教員が医療現場での経験を活かし、外科的疾患の総論を講義する/元看護師の教員が医療現場で経験した内科的疾患に関する講義をする。

1. 概要

臨床でよく聞く基本的な疾患の概要や検査・治療法を理解する。さらに医療用語や略称を理解する。

2. 学習目標

①基礎的な疾患の病態、検査、治療を理解する。

3. 到達目標

- ①整形外科疾患の概念・病態を理解する。
- ②脳神経系疾患の概念・病態を理解する。
- ③3婦人科疾患の概念・病態を理解する。
- ④泌尿器科疾患の概念・病態を理解する。
- ⑤皮膚科疾患の概念・病態を理解する。
- ⑥眼科耳鼻咽喉科疾患の概念・病態を理解する。
- ⑦神経系疾患の概念・病態を理解する。

4. 評価

定期試験【70%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【30%】をもって総合的に評価する。

※再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点(20点満点)をもって評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「病気の地図帳」（講談社）

その他：必要に応じてプリント配布

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

教科書、プリント資料を使い基礎的な疾患のメカニズムや症状、検査、治療、合併症などを学ぶ。

【授業計画】

回	講義内容(前期)
1	整形外科疾患①骨折脱臼捻挫
2	②野球肩、肘、テニス肘
3	③五十肩、頰椎症
4	④骨粗鬆症、椎間板ヘルニア
5	⑤腰椎症
6	⑥菱形性関節症、リウマチ
7	⑦腱鞘炎、骨腫瘍
8	⑧肋間神経痛、坐骨神経症
9	脳神経系疾患①硬膜下出血、クモ膜下出血
10	②脳出血
11	③脳梗塞
12	④脳腫瘍
13	生殖器乳腺疾患①子宮筋腫
14	②内膜症
15	③子宮がん、卵巣腫瘍

回	講義内容(後期)
1	泌尿器科疾患①尿路結石症
2	②腎臓がん、膀胱がん
3	③前立腺肥大症、前立腺がん
4	皮膚科疾患①湿疹、蕁麻疹
5	②帯状疱疹
6	眼科耳鼻咽喉科疾患①白内障、緑内障
7	②眼底出血
8	③網膜剥離
9	④中耳炎、副鼻腔炎
10	⑤花粉性、扁桃炎
11	神経系疾患①顔面神経麻痺
12	②肋間神経痛
13	③坐骨神経痛
14	主要疾患の復習
15	定期テスト対策

簿記

単位数 4単位（60時間）前期・後期
担当 井上 聖也（非常勤講師）

専門学校等で「簿記」について授業を行っている講師が、簿記の基礎知識から講義する。

1. 概要

社会人として知っているのと役に立つ会計知識の基本を学びます。

2. 学習目標

- ①簿記に関する知識と技術を習得させ、会計処理能力を養う。
- ②財務諸表の作成方法を理解する。
- ③日本商工会議所主催簿記検定3級を取得する。

3. 到達目標

- ①企業の仕組みを仕訳等によって理解する。
- ②各種帳簿の記入方法を理解する。
- ③決算における意味と目的を理解させる。
- ④会計用語を理解する。

4. 評価

定期試験【70%】及び受講態度・課題提出及び出席状況等【30%】をもって総合的に評価する。

※再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点(20点満点)をもって評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「スッキリわかる 日商簿記3級」（TAC 出版）

その他：「フラットファイル」（A4タテ）

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

テキスト・プリントを中心に、日商簿記3級を合格するための知識・能力を学ぶ。

【授業計画】

回	講 義 内 容 (前 期)
1	簿記の基礎
2	商品売買
3	〃
4	現金
5	預金
6	小口現金
7	手形と電子記録債権・債務
8	貸付金・借入金
9	その他の債権・債務
10	〃
11	その他の費用
12	貸倒れと貸倒引当金
13	有形固定資産と減価償却
14	株式の発行、剰余金の配当と処分
15	法人税等と消費税

回	講 義 内 容 (後 期)
1	費用の前払いと収益の前受け
2	費用の未払と収益の未収
3	訂正仕訳、帳簿の記入
4	試算表
5	伝票と仕訳日計表
6	証ひょう
7	精算表
8	〃
9	財務諸表の作成
10	〃
11	〃
12	帳簿の締め切り
13	検定試験対策
14	〃
15	〃

薬剤学Ⅰ

単位数 2単位（30時間）前期・後期
担当 宮澤 葉子（非常勤講師）

薬剤師業務に携わった経験を持つ薬剤師が、薬剤に関する基本的知識を講義する。

1. 概要

医薬品の製剤と投与経路、剤型、薬効、有効性及副作用等を理解する。

2. 学習目標

- ①厚生労働省の『試験問題の作製に関する手引き』に対応して、その内容を押さえ、理解する。
- ②使用される薬の意義や役割を正しく把握するための基礎知識を得る。
- ③2年次に受験する登録販売者試験に合格する基礎力を身に付ける。

3. 到達目標

- ①病気にかかって薬が処方されたとき、その医薬品が病気に対して具体的にどのように作用するのかを理解する。
- ②「薬によって病気を治療するとはどういうことなのか」について説明できるようになる。
- ③医薬品の本質と現状について正しく認識することにより、医薬品を扱うものとしての自覚を持てるようにする。

4. 評価

定期試験【70%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【30%】をもって総合的に評価する。

※再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点(20点満点)をもって評価する。

5. 教科書・教材等

書籍名：「ココデル虎の巻 登録販売者試験 対策テキスト（上・下）、過去問題集」
（ネットパイロティング）

その他：必要に応じてプリントを配布する

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

テキストに掲載されている厚生労働省の『試験問題の作製に関する手引き』の原文の理解、及びその補足を行い、薬物治療に対する総論的知識を学ぶ。

【授業計画】

回	講 義 内 容 (前 期)
1	オリエンテーション1
2	オリエンテーション2
3	滋養強壯保健薬
4	滋養強壯保健薬
5	漢方処方製剤・生薬製剤
6	漢方処方製剤・生薬製剤
7	小児の疳を適応証とする生薬製剤
8	強心薬
9	婦人薬
10	皮膚に用いる薬
11	皮膚に用いる薬
12	皮膚に用いる薬
13	鼻に用いる薬
14	鼻に用いる薬
15	まとめ

回	講 義 内 容 (後 期)
1	眼科用薬
2	眼科用薬
3	歯や口中に用いる薬
4	歯や口中に用いる薬
5	禁煙補助剤
6	禁煙補助剤
7	公衆衛生用薬
8	公衆衛生用薬
9	一般用検査薬
10	一般用検査薬
11	演習問題
12	演習問題
13	演習問題
14	演習問題
15	まとめ

薬理学

単位数 2単位（30時間）前期・後期

担当 宮澤 葉子（非常勤講師）

薬剤師業務に携わった経験を持つ薬剤師が、薬の作用や効用効果等について講義する。

1. 概要

薬の適正使用とその効果、病態と薬の作用との関連について基礎的な知識を学びます。

2. 学習目標

- ①薬が作用するしくみについての基礎知識を習得する。
- ②病態生理（各症状の起こるしくみ）について理解を深める。
- ③医薬品の適正使用に必要な基礎知識を習得する。
- ④厚生労働省の『試験問題の作製に関する手引き』に対応して、その内容を押さえ理解する。

3. 到達目標

- ①薬が作用するしくみを理解する。
- ②代表的な病態生理について理解する。
- ③医薬品の適正利用について理解する。
- ④患者からの質問実例などを踏まえ、将来現場で働くイメージをつける。

4. 評価

定期試験【70%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【30%】をもって総合的に評価する。

※再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点(20点満点)をもって評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「ココデル虎の巻 登録販売者試験対策テキスト(上・下)」
(ネットパイロティング)

その他：プリント・パワーポイント資料を活用

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

テキスト・プリントを中心に薬が作用するしくみ・病態生理（各症状が引き起こるしくみ）についての基礎知識を学ぶことにより、薬物治療についての理解を深める

【授業計画】

回	講義内容(前期)
1	オリエンテーション 1
2	オリエンテーション 2
3	かぜ薬
4	かぜ薬
5	解熱鎮痛薬
6	解熱鎮痛薬
7	内服アレルギー用薬
8	内服アレルギー用薬
9	鎮咳去痰薬
10	鎮咳去痰薬
11	眠気を促す薬
12	眠気を促す薬
13	眠気を防ぐ薬
14	鎮暈薬
15	まとめ

回	講義内容(後期)
1	胃の薬
2	胃の薬
3	腸の薬
4	腸の薬
5	胃腸鎮痛鎮痙薬
6	胃腸鎮痛鎮痙薬
7	その他の消化器用薬
8	痔の薬
9	痔の薬
10	高コレステロール改善薬
11	貧血用薬
12	その他の循環器用薬
13	演習問題
14	演習問題
15	まとめ

診療放射線学科

授業科目	エックス線解剖学 I		科目番号	19	
科目分野	専門基礎分野（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		学年学期	1 年前期・後期	
単位数	2 単位	時間数	60 時間	授業形態	講義
担当教員	林 若樹（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、放射線検査における画像解剖を講義する。			
授業の概要					
1. 各種画像の成り立ちと特性を人体の構造と機能および病理から理解する。 2. 画像情報に関する理工学的な形成因子を理解する。 2. 人体の画像解剖を理解し病態の認識から画像描出技術を理解する。					
到達目標					
1. 基本的な各種画像の成り立ちを理解し、画像情報が理解できる。 2. 主要な画像解剖の名称や解剖学的役割の説明ができる。					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	ガイダンス	X線解剖学の意義と特徴、解剖用語			
2	呼吸器系 ①	呼吸器系解剖			
3	呼吸器系 ②	画像構成の原理と画像解剖			
4	縦隔	呼吸器と血液循環、心臓、咽頭と喉頭			
5	消化器系 ①	消化管画像解剖			
6	消化器系 ②	食道、胃、小腸、大腸			
7	消化器系 ③	肝・胆・膵			
8	泌尿器系 ①	腎 臓			
9	内分泌系 ①	内分泌器官			
10	内分泌系 ②	消化ホルモン			
11	骨格系	骨格総論			
12	上肢骨格	手、手関節、前腕骨、肘関節、上腕骨			
13	上肢帯骨格	肩関節、肩甲骨、肩鎖関節、鎖骨			
14	下肢骨格 ①	足、足関節、下腿骨			
15	下肢骨格 ②	膝関節、大腿骨、股関節			
16	泌尿器系 ②	尿管、膀胱、尿道、男女生殖腺			
17	胎児循環	一般的血液循環との相違			
18	骨格筋と骨盤骨	骨格筋総論と骨盤画像解剖			
19	脊椎 ①	脊椎総論			
20	脊椎 ②	頸椎、胸椎			
21	脊椎 ③	腰椎、仙骨、尾骨			

22	頭部 ①	頭蓋骨総論
23	頭部 ②	副鼻腔、聴覚
24	頭部 ③	脳概要
25	頭部 ④	大脳辺縁系と画像解剖
26	頭部 ⑤	大脳基底核と画像解剖
27	頭部 ⑥	脳室、脳槽、脳脊髄液循環と画像解剖
28	頭部 ⑦	小脳、脳幹と画像解剖
29	頭部 ⑧	伝導路と臨床所見と画像解剖
30	まとめ	エックス線解剖学Ⅰのまとめ

教科書・参考資料

教科書

「若葉マークの画像解剖学」 松村 明, 阿武 泉 監修 (メジカルビュー社)

「診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編」 福土政広 編 (メジカルビュー社)

「X線撮影技術学」 小田紋弘, 土井 司, 安藤英次 共編 (オーム社)

参考書

「カラー人体解剖学」 F.H.マティーニ, 他 著, 井上貴央 監訳 (西村書店)

その他

必要に応じてプリントを配布する。

評価方法

定期試験： 90 %

授業参加態度： 10 %

左記の項目について、表記の割合で評価する。

再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点（20点満点）をもって評価する。

定期試験は、各期に分けて行う。

授業科目	エックス線画像技術学 I		科目番号	39	
科目分野	専門分野 (診療画像技術学・臨床画像学)		学年学期	1 年前期	
単位数	2 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義
担当教員	林 若樹 (専任教員)				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、X線の成り立ち、X線を用いた撮影方法について講義する。			
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. X線のどのような性質を用いて、画像化するかを理解する。 2. X線撮影をする際、人体上の基準や撮影規則について理解する。 3. 胸部、腹部、骨格に対する単純X線撮影がどんな目的で行われ、どのように撮影するかを理解する。 4. X線撮影時、被検者のX線被ばくをどうしたら低減できるかを理解する。 					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単純撮影系におけるX線発生から各種画像出力までを説明できる。 2. X線と被写体との相互作用を説明できる。 3. X線写真の画質はどのような因子によって変化するかを説明できる。 4. 撮影に用いる基準線、基準点、体位、X線の方向を説明できる。 5. 四肢骨の骨格、関節の撮影法を説明できる。 6. 胸部、腹部の撮影法を説明できる。 					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	放射線検査とは	放射線検査全般の概要について			
2	撮影に必要な用語	撮影方向、基準線 (面)、ポジショニング用語解説			
3	一般撮影概要 ①	一般撮影室、撮影必要器材について			
4	一般撮影概要 ②	画像出力に関する必要器材について			
5	画像の構成	被写体コントラスト、写真コントラスト			
6	受像系 (検出器) について	増感紙/フィルム系、CR、FPD			
7	画像の成り立ち	線量、線質、半価層、半影、鮮鋭度、コントラスト			
8	一般撮影法 ①	全般的注意事項			
9	一般撮影法 ②	胸部撮影			
10	一般撮影法 ③	腹部撮影			
11	一般撮影法 ④	上肢撮影法 (手・手関節・肘関節・上腕骨)			
12	一般撮影法 ⑤	上肢帯撮影法 (肩・鎖骨・肩鎖関節・肩甲骨)			
13	一般撮影法 ⑥	下肢撮影法 (足・足関節・下腿骨)			
14	一般撮影法 ⑦	下肢撮影法 (膝関節)			
15	一般撮影法 ⑧	下肢撮影法 (大腿骨)			

教科書・参考資料**教科書**

「X線撮影技術学」 小田敝弘, 土井 司, 安藤英次 共編 (オーム社)

「チェックポイント X線撮影と画像評価」 谷崎 洋, 大棒秀一 著 (医療科学社)

評価方法

定期試験： 70 %

確認テスト： 15 %

授業参加態度： 15 %

左記の項目について、表記の割合で評価する。

再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点（20点満点）をもって評価する。

備 考

受講中に理解できない内容はその都度質問し、その日のうちに習得することが必要である。

本講義はエックス画像技術学Ⅱへ繋がる基礎知識となるため十分な理解が望まれる。

授業科目	エックス線画像技術学Ⅱ		科目番号	40	
科目分野	専門分野（診療画像技術学・臨床画像学）		学年学期	1年後期	
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
担当教員	林 若樹（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、X線の成り立ち、X線を用いた撮影方法について講義する。			
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. エックス線画像技術学Ⅰの知識を活用し、X線撮影をする際の人体上の基準や撮影規則を理解する。 2. 頭蓋骨、骨・関節、臓器、軟部組織に対する単純X線撮影の撮影目的・撮影方法を理解する。 3. X線撮影時、被検者のX線被ばくをどうしたら低減できるかを理解する。 4. 乳房撮影、歯科撮影の撮影目的・撮影方法を理解する。 					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 断層撮影、拡大撮影、軟線撮影、高圧撮影を説明できる。 2. 骨盤、脊椎、胸郭骨の撮影法を説明できる。 3. 頭蓋骨、副鼻腔、側頭骨、顔面骨の撮影法を説明できる。 4. 乳房、歯科口腔外科領域の撮影法を説明できる。 					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	一般撮影法 ①	骨盤撮影法			
2	一般撮影法 ②	股関節撮影法（小児股関節を含む）			
3	一般撮影法 ③	脊椎撮影法（頸椎・胸椎）			
4	一般撮影法 ④	脊椎撮影法（腰椎・仙椎）			
5	一般撮影法 ⑤	胸郭撮影法（胸骨、肋骨、胸鎖関節）			
6	一般撮影法 ⑥	頭蓋骨撮影法（副鼻腔撮影を含む）			
7	一般撮影法 ⑦	頭蓋骨撮影法（顔面頭蓋骨）			
8	一般撮影法 ⑧	頭蓋骨撮影法（聴器）			
9	一般撮影法 ⑨	咽頭・喉頭撮影、小児撮影			
10	一般撮影法 ⑩	乳房撮影法（解剖と基本的撮影原理）			
11	一般撮影法 ⑪	乳房撮影法（基本的ポジショニング、装置概要）			
12	一般撮影法 ⑫	乳房撮影法（病理と画像解剖）			
13	一般撮影法 ⑬	歯科撮影法（パノラマ、セファログラフィ）			
14	一般撮影法 ⑭	歯科撮影法（デンタル撮影など）			
15	一般撮影法 ⑮	X線撮影技術学のまとめ			
教科書・参考資料					
教科書					
「X線撮影技術学」 小田 紘弘，土井 司，安藤英次 共編（オーム社）					
「チェックポイント X線撮影と画像評価」 谷崎 洋，大棒秀一 著（医療科学社）					

評価方法	
定期試験： 70 % 確認テスト： 20 % 授業参加態度： 10 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。 再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び 事前課題等による加点（20点満点）をもって評価する。
備考	
前期のエックス線画像技術学Ⅰの基礎知識を利用する理解となるため、前期までの内容を各自で 十分に復習しておくこと。	

授業科目	画像工学 I		科目番号	68	
科目分野	専門分野 (医療画像情報学)		学年学期	1 年後期	
単位数	2 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義
担当教員	武田 祐司 (専任教員)				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が X 線画像を得るための知識、画像評価の基礎を講義する。			
授業の概要					
X 線と検出体の反応を理解し、医療現場で適切な X 線画像を得るための知識を得ることを目的とする。また、得られた画像の評価法の基礎について学ぶ。これらの知識は診療放射線技師として適切な撮影を行うことができるようになるために必須である。					
到達目標					
1. X 線と検出体との反応について理解する。 2. 画像情報解析の基本を身につける。					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	ガイダンス	授業の進め方、評価の方法などの説明			
2	写真感光の原理	写真の歴史と銀塩写真の基礎			
3	ハロゲン化銀	ハロゲン化銀結晶の物性			
4	露光と潜像	露光と潜像の特徴と現象			
5	現像処理	写真処理とその化学			
6	F-S 系で使用する機器と設備	暗室設備、自動現像機と管理			
7	センシトメトリと特性曲線	写真濃度と露光量、特性曲線の求め方			
8	F-S 系まとめ	まとめ			
9	デジタル画像の基礎	デジタル信号の基本と使用する基礎数学及び統計学			
10	標本化と量子化	標本化定理とナイキスト周波数、エリアシングなど			
11	入出力特性	レスポンス関数			
12	解像特性	MTF			
13	雑音特性	SD, WS, RMS			
14	信号雑音比に基づく総合評価	DQE, NEQ			
15	画像の主観評価	ROC 解析			

教科書・参考資料

教科書

「放射線写真学」 富士フイルムメディカル 著（富士フイルムメディカル）

参考書

「診療放射線技術（上巻）」 小塚隆弘，稲邑清也 監修（南山堂）

評価方法

定期試験： 90 %

確認テスト： 10 %

左記の項目について、表記の割合で評価する。
再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び
事前課題等による加点（20点満点）をもって評価する。

授業科目	エックス線解剖学Ⅱ		科目番号	20	
科目分野	専門基礎分野（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		学年学期	2年前期	
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義
担当教員	木村 紀行、鈴木 正俊、菊池 小枝（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、放射線検査における画像解剖を講義する。			
授業の概要					
エックス線解剖学Ⅰでは単純X線写真、各種臓器解剖について学んできた。エックス線解剖学Ⅱではこれらの知識をもとに、血管解剖学的位置関係を理解し、血管造影検査、CT、MRI 検査における血管画像を三次元的に学ぶ。また眼底検査の画像理解も行う。					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 胸部、腹部 CT 画像の解剖を説明することができる。 2. 頭部 MRI 画像の解剖を説明することができる。 3. CT 画像と MRI 画像の違いならびに特徴を説明することができる。 4. 血管造影画像の解剖を説明することができる。 5. 眼底写真の画像解剖を説明することができる。 					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	ガイダンス	エックス線解剖学Ⅱについて			
2	視覚器 ①	解剖と眼底検査			
3	視覚器 ②	眼底検査の画像と疾患			
4	血管解剖総論	動脈と静脈の画像描出の違い			
5	大動脈	大動脈から直接分岐する動脈画像について			
6	脳血管 ①	頭頸部動脈の画像解剖			
7	冠動脈	冠動脈の画像解剖			
8	胸部血管	肺動脈、肺静脈、気管支動脈の画像解剖			
9	腹部血管 ①	腹腔動脈などの画像解剖			
10	腹部血管 ②	肝門脈などの画像解剖			
11	腹部血管 ③	腎動脈などの画像解剖			
12	四肢血管	四肢の動脈・静脈の画像解剖			
13	脳血管 ②	頭頸部静脈の画像解剖			
14	CT（胸部・腹部）	胸腹部における CT での解剖			
15	MRI（頭部）	頭部における MRI での解剖			

教科書・参考資料

教科書

「若葉マークの画像解剖学」 松村 明, 阿武 泉 監修 (メジカルビュー社)

「骨単」 河合良訓 監修 (エヌ・ティー・エス)

「臓単」 河合良訓 監修 (エヌ・ティー・エス)

「脳単」 河合良訓 監修 (エヌ・ティー・エス)

参考書

「カラー人体解剖学」 F.H.マティーニ, 他 著, 井上貴央 監訳 (西村書店)

その他

必要に応じてプリントを配布する。

評価方法

定期試験： 60 %

確認テスト： 35 %

授業参加態度： 5 %

左記の項目について、表記の割合で評価する。

再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び事前課題等による加点（20点満点）をもって評価する。

備 考

本講義では、1年次のエックス線解剖学Ⅰの知識が重要である。各自十分に1年次の復習を行うこと。

授業科目	エックス線画像技術学Ⅲ		科目番号	41	
科目分野	専門分野（診療画像技術学・臨床画像学）		学年学期	2年前期	
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
担当教員	木村 紀行、菅原 宏昌、林 若樹、菊池 小枝（専任教員）、島崎 洋（非常勤講師）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、X線の成り立ち、X線を用いた撮影方法について講義する。			
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. X線造影検査が行えるよう検査法を理解する。 2. 造影剤の基本的な知識と副作用について理解する。 3. 消化管造影の検査法を理解する。 4. 頭部、胸部のインターベンショナル・ラジオロジーについて概要を理解する。 5. 画像診断におけるX線造影検査とCT検査、MRI検査の関係を理解する。 					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 造影剤の種類について大まかな分類ができる。 2. 造影剤の副作用に対する適切な対応が理解できる。 3. 消化管造影のルーチン撮影法を説明できる。 4. 検査部位ごとのX線解剖を説明できる。 5. 脳血管造影、心臓カテーテル検査の概要を説明できる。 6. 各造影検査について必要な前処置を説明できる。 7. X線TV装置、血管造影装置の概要と検査の関係が理解できる。 8. 診断上、造影検査、CT検査、MRI検査がどのように利用されているかを理解できる。 					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	ガイダンス	造影検査概要、造影検査の安全管理			
2	造影剤	造影剤の基礎知識			
3	消化管造影検査	消化管造影検査概要			
4	上部消化管造影検査 ①	上部消化管検査における装置操作、基礎理論			
5	上部消化管造影検査 ②	上部消化管撮影法、画像と疾患について			
6	小腸造影検査	小腸造影検査法			
7	下部消化管造影検査 ①	下部消化管造影検査法、前処置、撮影法			
8	下部消化管造影検査 ②	下部消化管の画像と疾患			
9	血管造影検査	血管造影検査概要			
10	脳血管造影検査 ①	脳血管造影検査における装置操作、基礎理論			
11	脳血管造影検査 ②	脳血管造影検査法について、脳血管IVRについて			
12	心臓カテーテル検査 ①	冠動脈造影、右心カテーテル法			
13	心臓カテーテル検査 ②	冠動脈インターベンション			
14	胸部その他の検査	気管支動脈造影、カテーテルアブレーションなど			

15	胆道系造影検査	内視鏡的逆行性胆管膵管造影など
教科書・参考資料		
教科書 「X線造影検査の実践」 金森勇雄, 井戸靖司, 他 編 (医療科学社) 「造影検査学」 神島 保 監修, 杉本博行 著 (メジカルビュー社) 「若葉マークの画像解剖学」 松村 明, 阿武 泉 監修 (メジカルビュー社)		
参考書 「診療放射線技術 (上巻)」 小塚隆弘, 稲邑清也 監修 (南江堂)		
その他 必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法		
定期試験： 60 % 確認テスト： 35 % 授業参加態度： 5 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。 各検査講義前に1年次の復習を兼ねた小試験を実施する 再々試験実施の場合の評価は、再々試験における素点及び 事前課題等による加点(20点満点)をもって評価する。。	
備考		
本講義の理解には1、2年次のエックス線解剖学の知識が不可欠である。また後期エックス線画像技術学 IVの基礎となる内容であり十分な理解ができるよう復習を各自行うこと。		

看護学科

看護学概論 I

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前期

担当講師名 : 新野 有美 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. ナイチンゲールの考え方を基礎とした看護の概念について理解する。
2. 看護の対象である人間について関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面を持つ生活者であることを理解する。
3. 人々の生活が環境と健康とのかかわりで成り立っていることを理解する。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護とは何か (10 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何か自分の言葉で述べるができる。 2. 看護史の概要とナイチンゲールの功績について理解できる。 3. 看護の役割と機能について理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何か <ul style="list-style-type: none"> ・看護の定義 ・看護理論家にみる「看護とは」 ・保健師助産師看護師法における定義 2. 看護の歴史とナイチンゲール 3. 看護の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ケア、ケアリング ・看護実践とその質保証に必要な要件 ・EBN ・クリティカルシンキング 	講義 グループワーク レポート
看護の対象理解 (8 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象である人間について自分の言葉で考えを述べるができる。 2. 看護の対象である人間について身体的・を持つ存在であることがわかる。的・精神的・社会的側面を持つ存在であることがわかる。 3. 生活者としての人間に対しての看護の役割について考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間とは 2. 看護の対象としての人間 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の「こころ」と「からだ」 ・生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・生活者としての人間 <p>・看護の対象としての家族・集団・地域</p>	講義 グループワーク

健康を考える (10 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何かを自分の言葉で述べることができる。 2. 健康障害と生活の関係を述べるができる。 3. 主要な公的統計の結果から、国民全体の健康と生活について考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは 2. 健康のとらえ方 <ul style="list-style-type: none"> ・健康とはなにか ・健康でない状態とはどのようなものか ・障害とはなにか ・生活と健康 ・健康の実現：ヘルスプロモーション 3. 国民の健康の全体像 <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する統計資料 ・現代の日本人の健康と生活を考える 	講義 グループワーク
単位認定試験 (2 時間)	1. 学習内容の知識の再確認。		試験
<p>教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」 (現代社) 評価方法：筆記試験 (80%) レポート (20%)</p>			

看護学概論Ⅱ

1 単位 (30 時間) : 1 学年 後期

担当講師名 : 池田 緑 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 近代看護が成立した背景を学び、看護の発展のプロセスから未来の看護を展望する。
2. 看護理論の意義と、看護実践に活用するヘンダーソンの理論を理解する。
3. これからの看護に期待される役割について理解する。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護の歴史 (14 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の変遷を理解し、未来の看護を臨むことができる。 2. 各時代の暮らし (生活) と健康をつなぐことができる。 3. 各時代の暮らし (生活) と医療・看護の関係について考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 なぜ看護歴史を学ぶのか 2. 日本看護史の各時代の暮らしと健康 (病気) をつなぐ 3. 各時代の医療・看護を暮らしとの関係について 4. 日本の看護師の歩みから、未来へつなぐものは何かを考える 	講義・演習 グループワーク 予習シート使用
看護理論 (8 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の発展と主な看護理論家の業績を概観し、看護実践に活用できることを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは 2. 看護理論の重要性 3. 看護の理論的業績の概観 4. 主要な概念と定義 5. ヘンダーソン看護理論の看護実践への活用例 	講義・演習 グループワーク
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護サービスの担い手とチーム医療 	講義・演習

<p>看護サービス提供の場と保健医療福祉</p> <p>(6 時間)</p>	<p>看護サービスの担い手と場の広がり理解する。</p> <p>2. 保健医療福祉活動が直面する課題を理解し、多職種との連携を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービス提供の担い手 ・チーム医療とは何か <p>2. 看護サービス提供の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設における看護 ・地域における看護(学校/在宅/産業) ・継続看護(訪問看護ステーション/外来) <p>3. 保健医療福祉活動における看護職の役割</p> <p>4. 保健医療福祉活動における課題</p>	
<p>単位認定試験</p> <p>(2 時間)</p>	<p>1. 既習の学習内容の自己知識の再確認する。</p>		<p>試験</p>
<p>教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 別巻 「看護史」第7版 (医学書院)</p> <p>ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 (日本看護協会出版会)</p> <p>評価方法：筆記試験 (60%) 課題 (40%)</p>			

看護の共通技術 I

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前・後期

担当講師名 : 阿部 綾 ・ 樋口 由香里
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 看護技術の概念と、看護技術を実践するための要素を理解する。
2. 信頼関係構築の基本となるコミュニケーションの意義及び方法を理解し、実践できる能力を養うための基礎を学ぶ。
3. 看護記録の意義と実際の記録物について学ぶ。
4. 看護における学習支援の意義と実際について学ぶ。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護の方法と技術 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは何かがわかる。 2. 看護技術の基本原則と構成がわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは 2. 看護技術の特徴 3. 基礎看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素 	講義 担当: 阿部 綾
コミュニケーションの基本 (4 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性がわかる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程がわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. ミスコミュニケーション 4. 医療におけるコミュニケーション 	講義・演習 担当: 阿部 綾
関係構築のためのコミュニケーションの基本 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本的な方法についてわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本的態度 (接近的行動と非接近的行動) 自己紹介・身だしなみ・表情・ 	講義・演習 担当: 阿部 綾

		視線・距離・スキンシップなど	
効果的なコミュニケーションの実際 (10 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション活動の基本である「聴く」について、理解できる。 2. 様々な看護場面にあるコミュニケーション方法が理解できる。 3. コミュニケーション障害がある人の特徴と対応がわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傾聴の技術 受容 共感的理解 同情との違い 承認 価値観の違い 自己開示 2. 情報収集の技術 質問の技術 面接の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス 5. コミュニケーションに障害がある人の特徴と対応 	講義・演習 担当: 阿部 綾
単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護記録 (4 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の法的規定目的・機能がわかる。 2. 看護記録の実際についてわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法的規定・目的・機能 2. 記録の種類・構成 基本情報 看護計画 経過記録 3. 記載・管理における留意点 	講義・演習 担当: 樋口 由香里
学習支援 (6 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における学習支援の在り方を理解する。 2. 様々な対象に対する学習支援の実際について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における「学習支援」の意義と目的 健康にいきることを支える学習支援 2. 健康状態の変化に伴う学習支援 3. 健康状態の変化に伴う学習支援 	講義 担当: 樋口 由香里
単位認定試験 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。 		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

看護の共通技術Ⅱ

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前期

担当講師名 : 堀川 亜希 他
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 対象の健康状態を観察、記録、評価する意義と方法を学ぶ。
2. フィジカルアセスメントを実施できる基礎的技術を習得し、対象の健康状態を把握する基礎を学ぶ。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
ヘルスアセスメントの視点 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を身体的・心理的・社会的存在として捉え、ヘルスアセスメントの視点を述べることができる。 2. 対象の健康状態を評価する意義と、視点を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察とは 2. 観察の視点と留意点 3. ヘルスアセスメントの意義と目的 4. ヘルスアセスメントの視点 	講義 担当 :
バイタルサイン (12 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定の目的を理解し、正確な測定及び記録報告ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定とは ①必要物品 ②基本原則 2. バイタルサインの測定方法と留意点 3. バイタルサイン測定の観察の視点と留意点 	講義 演習 技術チェック 担当 :
フィジカルイグザミネーション (14 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体各部 (系統別) のアセスメントの視点及びフィジカルイグザミネーションの方法がわかる。 2. 胸部・腹部のフィジカルイグザミネーションが正確に実施できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問診の技術 2. 健康歴聴取の実際 3. フィジカルアセスメントに必要な技術 ①視診 ②触診 ③打診 ④聴診 4. 胸部のフィジカルイグザミネーション 5. 腹部のフィジカルイグザミネーション 6. 神経系・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション 7. 	講義 演習 技術チェック 担当 : 堀川 亜希

		正確なバイタルサイン測定と、胸部・腹部のフィジカルイグザミネーション	
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
<p>教科書：系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 (医学書院)</p> <p>評価方法：筆記試験 100%</p>			

日常生活援助技術 I

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前・後期

担当講師名 : 石田 美香 ・ 堀川 亜希 ・ 樋口 由香里
 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
環境調整 (10 時間)	1. 快適な療養環境を整える必要性と方法を理解する。 2. 療養環境を安全・安楽・快適に整えるために必要な看護技術を習得する。	1. 環境調整の意義と看護の役割 2. 療養生活の環境 医療環境の構造と機能 寝具・ベッドの種類と機能 3. 病院見学 病院の概要 (機能・特徴) 病棟・病室の構造、設備、物品の配置及び管理、入院患者の特徴などの実際 4. 療養環境のアセスメント 換気・温度・湿度・彩光と照明・色彩 臭気・騒音・プライバシー・安全 5. 生活環境を整える援助の実際 ・ベッドメイキング ・環境整備 ・臥床患者のリネン交換	講義・演習 担当 : 石田 美香
活動・移動・姿勢の保持 (12 時間)	1. 人間の活動・移動・姿勢の保持の意義を学び、必要な援助方法が理解できる。 2. 安全・安楽に対象の活動・移動・姿勢の保持を助けるために必要な看護技術の基	1. 活動の意義と看護師の役割 2. 姿勢と体位 良肢位・基本体位 3. ボディメカニクスの概念・意義 4. 廃用症候群 5. 褥瘡発生のメカニズム 6. 体位変換の援助 ・ベッド上での水平移動 ・仰臥位→側臥位 ・仰臥位→端座位 ・端座位→立位 7. ポジショニング	講義・演習 担当 : 堀川 亜希

	本を習得できる。	8. 移動・移乗・移送の援助 ・歩行の介助 ・車いすでの移乗・移送の介助 ・ストレッチャーへの移乗・移送	
睡眠と休息 (2 時間)	1. 睡眠・休息の意義を学び、必要な援助方法がわかる。	1. 睡眠・休息の意義 ・睡眠のメカニズム ・サーカディアンリズム 2. 睡眠障害のアセスメント ・睡眠障害の種類とその要因 ・睡眠に関するアセスメントの留意点 3. 睡眠・休息への援助 ・環境調整 生活リズム 睡眠習慣	講義 担当： 堀川 亜希
苦痛の緩和・ 安楽の援助 (4 時間)	1 苦痛を緩和し、安楽を提供する援助方法がわかる。	1. 罨法 2. ポジショニング	講義・演習 担当： 樋口 由香里
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
<p>教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 (医学書院)</p> <p>評価方法：筆記試験 (100%)</p>			

日常生活援助技術Ⅱ

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前・後期

担当講師名 : 石田 美香 ・ 阿部 綾
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

対象を尊重し、安全・安楽・自立に留意しながら、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
清潔の保持と衣生活 (14 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・療養生活が清潔行動に及ぼす影響を理解する。 2. 清潔保持の意義を理解する。 3. 清潔・衣生活へのアセスメントの視点を理解する。 4. 清潔・衣生活援助技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養生活を送る患者の清潔保持の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 清潔援助方法の選択と援助の実際 4. 入浴・シャワー浴の意義 5. 清拭 (全身清拭・部分清拭) 6. 洗髪 整容 手浴 足浴 陰部洗浄 7. 療養生活に適切な衣類の選択と条件 8. 衣生活の意義と援助 9. 臥床患者の寝衣交換 10. 清潔・衣生活における看護の役割 	講義・演習 担当 : 沼本 美香
食事 (8 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事・栄養の意義を理解する。 2. 栄養状態および摂食能力のアセスメントの視点を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事・栄養の意義と看護の役割 2. 摂食・嚥下・消化吸収の機能 3. 栄養状態・摂食能力のアセスメント 4. 食事援助の実際 ・療養における食事内容の調整 	講義・演習 担当 : 阿部 綾

	3. 状況に合わせた安全・安楽な援助方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事環境の調整 ・食事の準備/食事介助/食後のケア 5. 非経口的栄養摂取の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養法 ・経静脈栄養法（中心静脈栄養法） 	
排泄 (6 時間)	1. 排泄の意義を理解する。 2. 排泄のメカニズムとアセスメントの視点を学ぶ 3. 排泄援助の基本的姿勢を学び、援助方法がわかる。	1. 排泄の意義と看護の役割 2. 排尿・排便のメカニズムと排泄物の正常・異常 3. 排泄に影響を及ぼす因子 4. 排泄および排泄行動のアセスメント 5. 対象に応じた排泄介助の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレにおける排泄援助 ・床上排泄援助（おむつ交換・尿器） ・排泄用具を用いた排泄援助 6. 排便障害時の援助 <ul style="list-style-type: none"> ①自然排便を促す援助 ②摘便 ③浣腸：グリセリン浣腸 	講義・演習 担当： 石田 美香
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

看護過程 I

2 単位 (30 時間) : 1 学年 後期

担当講師名 : 池田 緑 他
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

看護過程の意義を理解し、対象にとって必要な援助を見極め、実践するための考え方について学ぶ。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護過程の展開に必要な思考の訓練 (4 時間)	1. クリティカルシンキングを体験し思考のバイアスがわかる。 2. 問題解決過程の要素がわかる。	1 思考のバイアス . 2 クリティカルシンキング . 3 問題解決思考 . .	講義 演習 個人ワーク
看護過程の概要 (4 時間)	1. 看護実践における看護過程の意義・目的が理解できる。 2. 看護過程の構成要素が理解できる。 3. 看護理論に基づいた対象理解がわかる。	1 看護過程とは . 2 看護過程の構成要素 . 3 看護理論を看護過程に活用する . ヘンダーソンの基本的欲求	講義
看護過程の実際	1. 情報を整理できる。	事例を用いて看護過程の展開を行う。 1 アセスメント (情報収集、解釈・分析・問題 . の推論)	講義 演習

(20 時間)	<p>2. 看護上の問題を捉えることができる。</p> <p>3 患者に必要な看護を考える事ができる。</p> <p>4. 評価の意義がわかる。</p>	<p>2 常在条件・病理的状态</p> <p>・</p> <p>3 全体像</p> <p>・</p> <p>4 看護上の問題の明確化 (看護診断)</p> <p>・</p> <p>5 看護計画の立案</p> <p>・</p> <p>6 評価の意義と方法</p> <p>・</p> <p>7 倫理的配慮と価値判断</p> <p>・</p>	個人ワーク
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
<p>教科書：系統看護学講座 基礎看護学技術 I 基礎看護学[2] (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 (医学書院)</p> <p>評価方法：筆記試験 (50%) レポート (50%)</p>			

成人看護学概論

1 単位 (30 時間) : 1 学年 後期

担当講師名 : 堀川 亜希 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

成人期にある対象の特徴と対象を取り巻く環境について学び、成人の成長・発達と健康の水準に応じた健康問題や成人の特徴をとらえた看護の基本となる考え方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
成人の特徴と成人を取り巻く環境 (4 時間)	1. 成人期にある対象の特徴を理解する。 2. 健康問題に関する社会の動向をとらえる。	1. 生涯発達の概念 2. 成人の発達段階、発達課題 3. 成人の身体的・精神的・社会的な特徴 4. 成人期の生活と取り巻く環境 ・社会状況の変化 ・産業構造・労働環境の変化 ・就労条件・環境と疾病の関係 5. 成人のライフスタイルの特徴 6. ストレスに関連する健康課題 ・ストレスと健康 ・ストレスと対処法 7. 家族形態の変化、家族システムの機能 ・役割	講義 グループワーク
成人の生活と健康 (2 時間)	1. 成人の健康を生活と社会環境から多角的に捉える。	1. 成人の健康状況 ・生活習慣病の要因 ・健康問題の現状と推移 2. 生活と健康を守り、育むシステム 3. ヘルスプロモーション	講義
成人への看護アプローチの基本 (6 時間)	1. 効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチを学ぶ。 2. 患者と看護師との人間関係の構築とそのプロ	1. 成人の健康行動の概念 ・健康行動、保健行動 2. 行動変容を促進するアプローチ 3. 症状マネジメント 4. 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係 5. 看護における集団へのアプローチ 6. 多職種連携、チームアプローチ	講義 グループワーク

	<p>セスについて理解する。</p> <p>3. 看護における多職種連携の重要性について理解する。</p> <p>4. 看護におけるマネジメントの役割・機能について、看護ケアの質保証の観点から理解する。</p> <p>5. 倫理的判断の基盤となる倫理上の基本原則および看護師の倫理規定について理解する。</p> <p>6. 患者の意思決定を支える看護師の役割について理解する。</p>	<p>7. 看護におけるマネジメント</p> <p>8. 医療の場における倫理的課題、倫理的判断の基盤</p> <p>9. 意思決定支援の概念</p> <p>10. 意思決定プロセスにおける看護師の役割</p>	
単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
<p>成人の健康水準に対応した看護</p> <p>(14 時間)</p>	<p>1. 成人の健康水準の特徴と対応する看護を理解する。</p>	<p>1. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある人の特徴 ・急性期にある人の看護 <p>2. 回復期にある人・障害がある人の生活を支援する看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期にある患者の特徴と看護 ・リハビリテーションにおける看護の役割 役割 (廃用症候群の予防) ・障害の受容過程とその支援 	<p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p>

		<ol style="list-style-type: none"> 3. 慢性的な経過をたどる健康障害の特徴と慢性疾患を有する人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患とともにある生活の理解 ・セルフケア・セルフマネジメントへの支援 ・行動変容を促進するアプローチ 4. 人生の最期のときを支える看護 全人的苦痛と死の受容過程 	
退院支援・家族支援に関わる看護活動 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援における看護師の役割を理解する。 2. 家族の機能と家族支援に向けた看護の役割を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援の必要性とプロセス 2. 家族機能 3. 家族支援のアプローチ 4. 社会資源の活用 	講義
単位認定試験 (2 時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。 		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院) 国民衛生の動向 2025/2026 (厚生労働統計協会) 評価方法：筆記試験 (70%)、授業への参加状況と演習評価 (30%)			